

2025 AUTUMN

Vol.490 —

11月号



Dokkyo Picks

獨協と未来の架け橋となる広報誌

獨協大学の地域連携活動

学長と地域総合研究所長が語る
地域と協働する大学へ

学生参加型
地域とともに、草加市の未来を描く

卒業生に聞く！
未来への羅針盤

CAMPUS NEWS

「学生による授業評価アンケート」結果報告

ぶらりらいぶらり

DOKKYO SDGs

獨協大学の地域連携活動

学長と地域総合研究所長が語る

地域と協働する大学へ



地域総合研究所長
大谷 基道（おおたに・もとみち）

法学部総合政策学科教授。法学部長。
2024年に地域総合研究所長に就任。
茨城県庁、公的シンクタンクでの実務経験を持つ。
専門分野は行政学、地方自治論。



獨協大学学長
前沢 浩子（まえざわ・ひろこ）

獨協大学着任後、英語学科長・国際交流センター所長を歴任。
2024年に学長に就任。
専門分野は英文学。
社会を支える人材育成に注力。

獨協大学は開学以来、草加市を中心とする地域とともに発展してきた大学です。社会構造の変化や地域課題の複雑化によって、大学と地域の関係性も変わっていく中で、地域連携の新たな形を模索する動きが始まっています。そこで本学が目指す地域連携について、前沢学長と大谷地域総合研究所長に語っていただきました。

地域とともに歩み、進化する連携の形

まず、大学が地域連携に取り組む意義を教えてください。

前沢学長（以下前沢） 地域連携は、一人ひとりの市民が幸せに暮らせるより良い社会をつくるために欠かせません。少子高齢化や首都圏への一極集中が加速し、地域社会が弱体化する中、地域課題を主体的に解決する人材を育成し、安心して暮らせる社会づくりの基盤になることが大学の役割だと考えています。

大谷地域総合研究所長（以下大谷） 特に本学のように地域に根付いた大学においては、調査・研究成果を地域に還元するだけでなく、そこから得られる学びを学生の教育に活かすことで、知と実践の循環が実現します。地域総合研究所はこの循環を促進し、地域モデルを構築するために設立されました。

——獨協大学における地域連携のあり方は、どのように変化してきましたか。

前沢 草加市に開学した当時は高度成長の真っただなかであり、本学は産業人材の育成という側面から、間接的に地域貢献の役割を担っていました。その後、地域の方への学びの場の提供、街が抱える諸課題の調査・研究など、そのときどきで求められる活動に取り組み、街も大学も大きく発展。そして今、日本の経済構造は大きな転換点を迎え、社会課題の解決は、より困難になってきています。地域とともに歩んできた大学として、改めて両者の連携を強め、その成果を存分に教育・研究に活かすべき時期がやってきているのではないのでしょうか。

大谷 そうですね。おっしゃるように、これまでもゼミ活動など学内のあちこちで地域連携の取り組みが進められてきました。これらに加え、地域総合研究所がこれまでに培ってきた地域との関係性をさらに深め、「学生を含めた大学と地域とが協働すること」に重きを置いた実践的な教育・研究活動を推進したいと考えています。

草加市の課題に取り組み、現場で学ぶ

——2025年度から、草加市と地域総合研究所による課題解決型協働研究がスタートしました。どのような内容なのでしょう。

援い、研究と教育に還元します。また、地域総合研究所の取り組みについては今後、草加市を含む埼玉県東部地域だけでなく、その周辺地域などにも対象を広げたり、他大学と連携したりといった構想を描いています。



▲ 地域総合研究所の研究員による論文や研究成果、活動をまとめた定期刊行物。設立以来、『地域総合研究』は、年1回のペースで刊行しています。

超えて参加できる体制を検討しています。ぜひ多くの学生に挑戦してもらいたいと思います。

大谷 地域課題の解決策は必ずしも一つだけでなく、さまざまな視点からのアプローチが可能です。そのため、各学部学科の授業やゼミなどを通して、すでに知識を得ている学生も多いと思います。しかし、机上の学びだけでなく、「実際にやってみること」から得られる発見は想像以上です。また、国や地域のために働きたいと公務員を志す学生にとっては、実務を経験できるチャンスでもあります。

——大学の地域連携を通じて期待される学生の成長や、今後の展開を教えてください。

大谷 2025年度は草加市の「シティプロモーション」をテーマに、市職員、学生、教員などが議論を重ね、政策案を検討しています。草加市では、子育て世代の移住・定住促進に力を入れており、草加市の魅力を若い世代にどのように届けるのか、7人の学生が参加して意見交換や調査・分析に取り組んでいます。11月には公開シンポジウムを開催し、学生による成果報告や、有識者による基調講演などを行う予定です。

前沢 自治体の方と一緒に地域課題に向き合い、解決策を導く実践的な学びの場ですね。主体的市民としての基盤を培う教育といえるのではないのでしょうか。最近では、観光や移住などで、地域における外国人と関わる機会が増えており、外国語や異文化理解の視点から課題をとらえる必要もあります。すべての学生にとって有意義な学びなので、今後、学部学科を



前沢 卒業後、誰もが必ずどこかの地域で暮らすことになります。そのときに大切なのは、地域コミュニティの担い手だという意識を持つて行動すること。それによって生活がより豊かで確かなものになるはずですよ。そのためにも、学生時代に実践的な活動を経験し、主体的市民としての考え方を身につけてほしいですね。また、本学の国際的な学びともかけ合わせ、地球規模の課題を自分事としてとらえられるグローバル市民への成長を期待しています。

大谷 草加市との協働研究は、既存の取り組みとも効果的に連携しながら、2026年度から本格的に展開していく予定です。今進めている「シティプロモーション」では、産官学5者（草加市、独立行政法人都市再生機構（UR）都市機構、東武鉄道株式会社、トヨタホーム株式会社、本学）による連携協定を活用し、トヨタホームの方から子育て世代の住まい探しの実態を聞く機会を設けました。さまざまな枠組みを使って、学生たちの実践的な活動を支

INFORMATION

地域総合研究所公開シンポジウム 「子育て世代を呼び込むためのシティプロモーション」を開催します

- 【日時】 2025年11月5日（水）15:40～17:15
- 【会場】 天野貞祐記念館3階大講堂
- 【申込方法】 事前申込制（先着順）、当日座席数に余裕があれば当日受付も可
お申し込みは右のURLまたは二次元バーコードからお願いします <https://x.gd/oeTbP>
- 【次第】 **基調講演:** 河尻 和佳子氏（河尻和佳子事務所代表、元流山市マーケティング課長、中央省庁マーケティング担当）
パネルディスカッション: 学生、草加市職員等による協働研究成果の報告・議論



学生参加型

地域とともに、
草加市の未来を描く



プロジェクトの流れ

取り組むテーマ

今年度は「シティブロモーション」
主に子育て世帯を対象に、草加市への移住・定住
を促進するためのプロモーション施策を検討

参加者

草加市:広報課、総合政策課、住宅政策課の主に若手職員
本学:学生および教員

活動内容

アンケート調査の実施・分析、関係者へのインタ
ビュー調査、草加市職員との議論、研究成果の報告

実施スケジュール

- 4/11 研究会①
- 5/16 研究会②
- 5/30 参加学生向け事前説明会
- 6/20 研究会③(学生はこの回から参加)
- 7/18 研究会④(アンケート結果の分析等)
- 9/26 研究会⑤(インタビュー調査等)
- 10/17 研究会⑥(プロモーション案の検討等)
- 11/5 シンポジウム(研究成果の報告)

プロジェクトを推進する
地域総合研究所長の 大谷先生より

地域課題に関わる人々と「協働」
することにこだわったプロジェクトで
す。現場で地域の人たちと一緒に課
題に取り組む経験は、座学では得ら
れない発見につながります。また、公
務員を志望する学生にとっては、実
務を垣間見ることができるチャンス。これからの社会で必
須となるデータ分析力も向上します。ぜひ、多くの学生に
挑戦してもらいたいと思います。



今年度から、地域連携の実践的な学びの
機会として「課題解決型協働研究」が始まり
ました。草加市の地域課題から毎年度1テーマ
を取り上げ、学生、教員、草加市職員が議論
し、課題解決に向けた政策形成を行います。
本学の地域総合研究所が培ってきた研究資
源を地域貢献に活用しつつ、学生教育に還元
する新たな取り組みです。

Q3.どんな収穫がありましたか？

自分以外の視点に触れ、視野が広
がりました。

例えば、子育て世帯が住環境で重視す
る「公園」は、私自身にはない視点だった
ので、他者との価値観の相違を見つめ直
すよい機会になったと思います。また、草
加市職員の方から仕事のやりがいを教え
ていただき、公務員の仕事への理解がよ
り深まりました。

Q2.学科やゼミでの学びを活かせますか？

学科やゼミで学んだ地方自治や行政学
などが役立ちました。

ゼミで調べた各自治体の有益な子育て支援策
や、移住者増加に成功した千葉県流山市の事
例などが今回の課題のヒントに。流山市のよ
うにメディア露出の増加や、SNSで草加市独自の
魅力を発信するといった案につながりました。
大学の講義は座学中心なので、実践的な活動
はとても新鮮です。

Q4.今後はどう活かしたいですか？

普遍的な価値を活用して社会課題
の解決につなげられるような仕事
に、公務員として携わりたいです。

最初は、有名な観光地や名産品といった
観光資源が地域の魅力だと思っていまし
た。しかし、子育て世帯にとっては保育園
や公園の数、通勤のしやすさ、自治体の
支援など、生活の根幹に関わる部分が
重要であると知り、当事者の視点で課題
解決のカギだと分かりました。

Q1.参加のきっかけは？

公務員の重要な仕事の一つ
である政策立案を経験でき
る点に魅力を感じたから。

公務員を目指しているので、草加
市職員の方と一緒に活動でき、
論理的思考力やコミュニケーショ
ン能力も身につくので、参加を決
めました。

子育て世帯を
調査
しました！



さん



新たな角度から
草加市の魅力を
発見！

やりがった
実践活動です



さん

Q1.参加のきっかけは？

地域の発展に貢献する実践的
な活動をしたかったから。

高校生の頃から花火大会や子ども
会のボランティアをしていて、地域を
盛り上げる公務員の仕事に興味が
ありました。公務員就職に強いと知っ
て入学した総合政策学科では、社会
問題や地域のつながりなどを学んで
います。今回は、草加市のリアルな課
題に取り組めるので参加しました。

Q2.外部の方との協働で得ら
れたことは？

さまざまな声に触れ、多角的に
物事を見られるようになりました。

草加市職員や企業、市民の方の意見
を直接聞いたり、アンケート調査を通じ
て市内外の住民の声に触れたりでき、
さまざまな見方があることを知りました。

Q3.自分の力になったことは？

データ分析です。初挑戦でしたが、分析
の視点で結果が変わる面白さを発見！

それまでExcelや関数とは縁遠かったので
よいチャンスでした。先生の解説動画を見なが
ら9月中は毎日のように分析に取り組みまし
た。結果から新たな「なぜ？」を見つけ、そこをさ
らに分析する作業を繰り返し、精度を上げて
いきました。

Q4.学科の学びで役立ったことは？

自治体の政策や取り組みを学ぶ授
業。草加市をより理解できるよう。

法学部の「法政総合講座」で、近隣市町
村の公務員の方から政策や取り組みに関
する講義を受けました。その内容と草加市
の実情とを照らし合わせて考えることがで
きました。

まちづくりに役立つ
課題解決力が
アップ！



本誌に載せきれなかった記事を
noteに掲載しています！
ぜひご覧ください！

note





草加のまちと暮らしを

こども施策から

変えていく

草加市 こども未来部
こども政策課 こども政策係
林 真由美さん
(法律学科 2019年度卒業)

草加市役所に入職以来、こども未来部に所属。「こどもまんなか そうか」を合言葉に、こどもを中心としたまちづくりを進める草加市において、こども施策の立案や実行に携わっている。

各業界で、時代をリードする存在として活躍する卒業生にインタビュー。今回は、こどもの意見を草加市の取り組みに反映させる「そうチャレ」、こどもの夢を実現させる「そうかこどもファンド」、この二つの新規事業に携わっている林 真由美さんにお話を伺いました。

現在の仕事を選んだ理由と、取り組んでいることについて教えてください。

公務員の道に進んだのは、仕事を通じて社会の役に立ちたかったからです。とりわけ大学時代を過ごした草加市には親しみがあり、市役所での仕事は魅力でした。入職以来、こども未来部で、こども施策に関する総合的な企画や調整に携わっています。2025年度から本格的にスタートした「そうチャレ」「そうかこどもファンド」には、立ち上げから中心メンバーとして関わってきました。「とにかくやってみよう！」という自由な雰囲気の中、経験の浅い私に任せていただき、試行錯誤しながら実現にこぎつけたプロジェクトです。

「そうチャレ」「そうかこどもファンド」はどのような内容ですか。

「そうチャレ」は、こどもの声を聴き「一緒にまちづくりを考える場で」「そうかこどもファンド」

りしています。イベント告知のチラシや広報紙をつくる機会も多く、デザインやイラストレーター、フォトショップの使い方を研究して自作できるようになりました。草加市のこどもたちに、自分たちの声で暮らしを変えられる「そうチャレ」「そうかこどもファンド」という仕組みを知ってもらい、活用してもらえよう努力を続けたいです。

大学での学びや経験は、現在のキャリアや生き方にならに繋がっていますか。

大学では刑法のゼミに入り、学びを深めることの面白さを得られました。また、大学で出会った友達や先生とのつながりは、今も大切にしています。特に草加市は、獨協大学との連携も多く、先生方へのお願いごとやゼミへの協力などは、やはり卒業生という立場から相談しやすくてありがたいですね。学生の力もぜひ借りたいと考えています。私が所属するこども未来部の仕事は、こどもに興味のある学生にとって学びが大きいと思います。公務員を目指すなら経験が強みになると思うので、ぜひ、声をかけてください。こちらからも情報提供などができるといいな、と考えています。

今後の目標を教えてください。

課題は、この取り組みを多くの人に知ってもらうこと。対象がこどもなのでネット上の情報が届きにくく、児童館に行つて直接、こどもに声をかけたり、さまざまにつながりを頼つてこどもたちに情報を届けてもらつた

は、まちをもっと楽しくするアイデアを持つこどもたちを応援する仕組み。どちらも、こどもの視点を行政に取り入れるところが特徴です。運営スタッフとして、こどもたちの話し合いの場に入ることもありますが、大人では思いつかないような発想や、想像以上に深い考えがあることに驚かされます。今年度は、高校生メンバーによるチャリティー緑日企画など、7つの提案に「そうかこどもファンド」からの助成が決まり、それぞれの想いを実現するための取り組みが進んでいます。

仕事で大変なことと、やりがいを教えてください。

新規事業の立ち上げから関われるのは、市役所内でもまれなようです。初めてのことがばかりなので、意見聴取や調査、先行事例のある自治体への視察など、とにかく手探りで進めました。周囲の理解を得ながら形にしていくな過程はとても難しかったですが、アドバイザーを務める大学の先生から、「回を重ねるごとによくなっているね」と言っていたとき、とてもうれしかったです。この仕事の醍醐味は、想像以上に直接こどもと関わる機会が多く、こどもの成長や笑顔を間近で感じられるところ。「そうチャレ」で出会った一人のこどもが印象に残っています。初回はどこか集中できない雰囲気があったのですが、「コミュニケーションを取るうちに変化が見られ、最終的にはたくさん意見を出したり、話しかけてくれたりするようになった。短期間で大きく成長した姿を目の当たりにし、信頼関係を築くことの大切さに気づきました。



多くの人と関わる中で、どのようなスキルや力が大切なのでしょう。

いちばん大事なのは、コミュニケーション力ではないでしょうか。市役所の仕事は、市民対応だけでなく、役所内や地域の人と協力しながら進めることが多いです。もともとは内向的な性格なのですが、できるだけ明るくオープンに接するよう心がけています。それがスムーズな仕事につながると実感しています。

学生時代に力を入れて取り組んだことを教えてください。

卓球部での活動です。練習日には、体育館が閉まる時間まで仲間と練習を重ねたこと、雄飛祭でチョコバナナの模擬店を出しつつ、

AFTER TALK

オンもオフも 自分を育てる時間に！

休日は学生時代の友達と卓球をしたり、音楽ライブやスポーツ観戦に出かけたりしてリフレッシュ。先日、大学の仲間と出場した卓球大会で優勝しました！時間を見つけて新しい習い事にも挑戦したいです。



本誌に載せきれなかった記事をnoteに掲載しています！ぜひご覧ください！

note



DOKKYOドイツフェス2025を開催



8月2日、第2回「DOKKYOドイツフェス2025」を本学主催で開催した。本イベントは、ドイツ語圏の文化を広く紹介し、日本とドイツの文化交流を促進することを目的としている。会場は獨協大学コミュニティスクエア、西棟、天野貞祐記念館、アリーナなどで、3500人以上の来場者があった。コミュニティスクエアおよび西棟では15もの店舗がドイツ料理やビール、ワイン、パンやケーキ、さらには関連書籍等を提供し、近隣住民のみならず、ドイツに関心を持つ幅広い層に獨協大学とドイツ文化を知ってもらう良い機会となった。

イベントは万博や映画字幕に関する学術的な講演のみならず、諸言語を学ぶ楽しみを発信するトークや留学へと誘うトークショー、ドイツ関連団体のブースや展示、小中学生向けのドイツ語講座、ドイツ語学科のゼミやドイツ語を学ぶ高校生によるポスター発表、スポーツ交流など、ドイツを多角的に楽しめる催事となった。

来場者の声の中には、「今後ドイツフェスが継続的に実施されることで、草加の地からドイツ語圏への関心が広がっていく兆しを感じました」という意見もあり、草加市と獨協大学からのドイツ文化の情報発信に重要な意義があったと思われる。



経済学部藤山ゼミの主催で、 草加高校との高大連携行事を実施



7月15日、経済学部国際環境経済学科・藤山英樹ゼミ主催で、草加高校との高大連携行事を行った。27名の草加高校生(1年生・2年生)が参加。当日には、草加高校の市川先生、小松原先生、川崎先生にもご同行いただいた。行事は3部構成で行われ、第1部ではゼミ生の三浦さん(3年)が、高校と大学の学びの違いについて、大学で培う「専門性」や、自ら発見する必要がある「問い」を軸に説明。第2部では、ゼミ生の芳賀沼さん(2年)による協力の難しさを示すゲームの解説とゼミ生の池田さん(2年)による数あてゲームの解説が行われた。最後の第3部では、藤山教授から簡単な英語による全体のまとめがあった。ゼミ生の三浦さんは「高校生との会話や説明をするという一連の活動を通して専門性や問いについて考えを深める良い機会となった。2年生は今後のゼミでの学修を、3年生は卒論執筆を進めていく上で、自分自身の学修や学校生活を振り返る貴重な時間となった」と感想を述べた。

2025年度 「子ども大学そうか」 開催



7月5日、西棟で「子ども大学そうか」の入学式と授業が行われた。抽選で選ばれた市内の小学5・6年生50名が5回の授業を受ける。入学式では高橋均エクステンションセンター長が挨拶し、児童が意気込みを述べた。高優美言語文化学科特任講師が「『ハングル(한글)』を学んで、伝統衣装「ハンbok(한복)」も作る」をテーマに授業をした。「韓国語はどんな場所で話されているのか」という話から始まり、「ハングル(한글)」の歴史を学んだ。

その後、口の動きを意識して発音し、韓国語で自己紹介をする練習をした。

最後は折り紙を使って伝統衣装「ハンbok(한복)」を作り、韓国や韓国語の歴史・文化の知識を深めることができた。



第27回 全国高校生ドイツ語 スピーチコンテストを 開催



10月5日、外国語学部主催「2025年度 第27回 獨協大学全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト」を獨協大学コミュニティスクエアにて開催した。

今回は応募総数171名のうち、予選審査を勝ち抜いた17名(第1部朗読部門7名、第2部プレゼンテーション部門4名、第3部フリースピーチ部門6名)が本選の舞台上でハイレベルなスピーチを披露した。

審査の結果、第1位の最優秀賞には、〈第1部〉田和香南子さん(東京都・学習院女子高等科)、〈第2部〉高野修平さん(埼玉県・伊奈学園総合高等学校)、〈第3部〉細江里佳さん(東京都・国際基督教大学高等学校)が選ばれた。

2025年度9月卒業式を挙行



9月20日、2025年度9月卒業式・学位記授与式を天野貞祐記念館大講堂で挙行し、86名の卒業生が本学を巣立った。

前沢浩子学長は式辞で次のように卒業生に呼びかけた。「卒業式は出発の日です。みなさんは獨協大学を出発点とし、これから『社会』と『世界』と『未来』に向かって進んでいきます。社会人になるとは会社員になることではなく、人々とともに生きる社会の一員になることです。自分のことだけ考えるのではなく、社会を支えていってください。また国際情勢に対処できるのが獨協大学の卒業生です。日本国内にいても、世界情勢に目を向け、地球上の誰もが等しく人権を持つことを信じる世界市民でいてください。そしてさまざまな課題に直面する未来に対しては、理性的に危険や不安を分析する『知性の悲観主義』と、それでもなおより良き未来を実現しようとする『意志の楽観主義』を持ってください。みなさんが『社会』と『世界』と『未来』に力強く踏み出し、歩んでいってくれることを信じ、願っています。」

また、卒業生を代表して渡部珠羅さん(言語文化学科)は次のように謝辞を述べた。「私たちがこれほど貴重な経験を積むことができたのは、やりたいことを決して否定せず、常に背中を押してくれた家族、また友人の存在があったからにほかなりません。これまで私たちを温かく支えてくれた家族と、学生生活をともに過ごした友人の存在に、改めて深く感謝いたします。本日この佳き日を迎えられました喜びと自信を胸に、卒業生一同、これからの社会において精一杯努めてまいります所存です。みなさまのご健康とご多幸、そして母校のさらなる発展を心よりお祈り申し上げます。」

◆学士

独9名、英18名、仏5名、交3名、言14名、済17名、営10名、環4名、律3名、関2名、総1名



オープンカレッジ特別講座「なぜポピュリズムは定着したのか —ヨーロッパとアメリカの半世紀—」



7月19日、E-102(東棟1階)でオープンカレッジ特別講座が開催された。主に社会人を対象とした生涯学習講座「オープンカレッジ」の無料講演会で、事前の申し込みにより、オンライン受講者を含めて391名が受講した。

講師は、作内由子総合政策学科教授。講座では、ポピュリズムの定義や特徴を考え、ポピュリズムの台頭は単なる個人のリーダーシップに起因するものではなく、構造的な要因によって支持されやすい社会になっていると考察した。

受講者アンケートでは講座内容に満足したという感想が多数寄せられ、ポピュリズムが定着した背景について深く知る機会となった様子が伺えた。



「ガーデンテラス」として リニューアルオープン



スタイルカフェの閉店後、ラウンジとして利用していた天野貞祐記念館1階のスペースが、2025年7月から「ガーデンテラス」としてリニューアルオープンした。

現在、このスペースには飲み物とお菓子の自動販売機とウォーターサーバーが設置されており、誰でも自由に利用できる。なお、「ガーデンテラス」では休憩・多目的スペースとしての機能に加え、事前に予約をすればゼミなどの懇親会での利用もできるようになった。



獨協大学英語教育研究会(DUETA) 2025年度春学期「特別企画」を開催



7月19日、獨協大学英語教育研究会主催の『DUETA 2025年度春学期「特別企画」:学会に参加すること・学会で発表すること』が開催された。本学英語学科の羽山恵准教授(DUETA 副代表)がコーディネーターを務め、中井康平先生(千葉大学教育学部附属中学校教諭)、高橋博将先生(上尾市立大石南小学校教諭)、ダ・シルヴァ・ヒカルド・ジェゴ氏(本学外国語学研究科)の3名が登壇。小中学校教諭や大学院生の立場から、学会参加や発表の体験を語った。参加者からは「学会のことを初めて知ることができてよかった」「異なる立場の経験談が新たな視点を与えてくれた」といった声が寄せられた。



イベント開催告知!

第9回 図書館講演会 文学と装丁の楽しい関係 —装丁と装画の醍醐味—

出版文化として独自に発展してきた装丁装画の仕事を紹介しながら日本の美しい書物史をひもときます。

日時:2025年11月12日(水)15:30~17:00

場所:獨協大学図書館3階 図書館情報セミナールーム(A-308)(先着60名)

対象:在学生・教職員・一般の方

※事前申込は不要です。直接会場にお越しください。

講師:小林 真理 氏(美術ジャーナリスト)

京都芸術大学客員教授。日本図書設計家協会前会長。日本文藝家協会正会員。アートディレクター、画家、美術ジャーナリスト。「画家の装幀」「うるしのうつわ」などのテーマで新聞連載や執筆、講演活動を行っている。



第36回 獨協インターナショナル・フォーラム 東アジア識字研究の現在 —その到達と課題—

識字研究のさまざまな問題群に視点をあてた研究報告を受け、研究交流を深めます。コーディネーターは国際教養学部言語文化学科川村肇教授、松岡格教授です。

日時:2025年12月13日(土)10:00~17:30、

14日(日)10:00~16:00

開催方法:対面・オンライン配信(Zoom)併用

対面会場:獨協大学 天野貞祐記念館大講堂

オンライン:参加申込者あてに、後日URLをご案内します。

参加申込:大学HP又はフライヤーを確認してください。

使用言語:日本語・韓国語、中国語(通訳又は翻訳あり)

問合せ:獨協大学国際交流センター

本学の先生方が
執筆された新刊情報をお届け！

2025 AUTUMN

大野 恵理 (交流文化学科
専任講師) 分担執筆

『高学歴中国人移民女性の
ライフコース—仕事・家
族・ジェンダー規範』
明石書店 2025年3月
本体4500円(税別)

日中両国の社会で学歴とキャリアを築いた高学
歴移民女性に焦点をあて、「ライフコース」の視
点からその経験と現状を分析し、課題や解決策
について模索する。これまでの移民女性像に新
たな視角を加え、多様な生き方を描き出す移民
とジェンダー研究の最新成果。

井上 たか子 (名誉教授)
訳、(フアンソワーズ・エリ
チュ 著)

『言葉の味—人生を豊かに
する秘密のゲーム』
明石書店 2025年4月
本体2200円(税別)

フランスを代表する知性が愛着した言葉の宝庫
を公開。直観的に、あるいは自由な連想によって
見つけた独自の言葉の定義集と、経験や感動
を抽象化せずに直接伝える慣用句の数々。言葉
と戯れつつ隠れた豊かな世界を発見する喜び
に満ちたゲームへと誘います。日・仏語対訳。

作内 由子 (総合政策学科
教授) 分担執筆

『アウトサイダー・ポリティ
クス—ポピュリズム時代の
民主主義』
岩波書店 2025年5月
本体3400円(税別)

トランプ再選、欧州右翼政党の主流化、「れい
わ」躍進……。既成政治を批判し、その周縁から
躍進するアウトサイダーの政治家たち。日米政
にとどまらず、ラテンアメリカ、東南アジアにも視
野を広げ、世界を揺るがすアウトサイダー政治の
「見取り図」を、各国政治研究の第一人者たちが
描く、現代政治を理解するための必読書。

大谷 基造 (総合政策学科教
授)、和田 一郎 (言語文化学科
教授) 分担執筆

『ポストコロナの自治体危機管理
—徹底検証!全国自治体1300日
の新型コロナウイルス対応とその教訓』
第一法規 2025年6月 本体4000円(税別)

約3年半にわたる自治体の新型コロナ対応の実態
について、全国の自治体でのアンケートをもとに実
証的に分析。自治体における首長のリーダーシ
プ、関係機関との連携、人事組織、デジタル化の実
態など課題を明らかにし、自治体に対し、今後の危
機管理において求められることを提言します。

柴田 守 (法律学科教授) 共著

『刑事政策〔第8版〕』
尚学社 2025年3月
本体4000円(税別)

実効的な犯罪統制のために、犯罪現象に関する実証
的な知識を提供する刑事政策の講義用テキスト
トピック。各種データを最新のものと改めるとも
に刑事政策関連の多岐に渡る法の改正・動
向を反映した改訂版です。

森井 良 (フランス語学科
准教授) 訳、(ビエル・エ
ルパール 著)

『アルキュオネ 力線』
幻戯書房 2025年5月
本体3400円(税別)

対独抵抗運動に挺身した
「闘士」の作家ビエル・エルパール。無人島で
営まれる少年同士の同性愛的な友情を描写する
BL小説『アルキュオネ』、スターリニズム下の
若き反抗者たちの同性愛と政治参加を巧みに
描いた、エルパールの私小説的作品『力線』の
2篇を収録。本邦初訳。

高田 久実 (法律学科准教
授) 共編著

『よくわかる日本法制史』
ミネルヴァ書房 2025年5月
本体2800円(税別)

国家生活、社会生活を営む
私たちにとって所与のシス
テムである法律や法制度。その成立過程、存在意
義、目的とはいかなるものか。本書は、日本法の
歴史を、「古代」・「中世」・「近世」・「近現代」の
各時代に区分して解説します。法律も歴史も幅
広く学びたい人のためのテキストです。

山本 淳 (ドイツ語学科教
授) 著

『音声DL BOOK
これなら覚えられる! ドイツ
語 単語帳』
NHK出版 2025年7月
本体1500円(税別)

海外旅行や日常会話に必須の約1500語を厳選。
大きな文字とやさしい例文、コンパクトな造本
で、場所を選ばず隙間時間で単語学習が可能に。
音声にはすべての見出し語・和訳に加え、よく
使うドイツ語の例文も収録。音声を繰り返し聞い
て、実用的で自然なドイツ語を身につけよう。

吉川 信将 (法律学科教授) 分担執筆

『現代企業法の新潮流—
福原紀彦先生古稀記念
論文集編集委員会』
文眞堂 2025年3月
本体15000円(税別)

日本私立学校振興・共済事業団理事長・中央大学
名誉教授福原紀彦先生の薫陶を受けた研究者・実
務家34名が、問題意識あふれる力作を寄稿。企業
法総論・総則、企業組織法、企業取引法、関連法の
全4編構成で、商法・会社法などの伝統的な議論か
ら環境・電子取引などの最先端の議論へと、現代
企業法に関する主要テーマを鋭く論じます。

古畑 侑亮 (言語文化学科
特任講師) 分担執筆

『書籍の思想史』
平凡社 2025年6月
本体3600円(税別)

本を書く、本を読む、本を編む
思想を見定めるだけではなく、
一群の本が作られることに、あれこれの本が禁じ
られることに、それらの本が集められること、求め
られ、貸し借りされること、弘められることのうち
に現れる、人々の思い、考え、信のありようを見定
める。思想史の新たな視界。

林 英一 (言語文化学科非
常動講師) 著

『海に沈んだ島の伝承と伝
説—断崖帯との関係を含
めて』
五月書房新社 2025年6月
本体2200円(税別)

高麗島、お亀磯、瓜生島、戸島、鴨島、冠島
……。21世紀の被災経験が呼び覚ます「日本
沈没」の民俗的記憶と古記録。本書は、民俗
学、歴史学、地質学などの最新の知見を総動員
しながら「日本沈没」の民俗的記憶に迫ります。

高橋 均 (総合政策学科教
授) 分担執筆

『現代国際取引法の諸相
SDGsに向けたビジネスの
フレームワーク』
大学教育出版 2025年8月
本体3200円(税別)

国際取引法学会は、2014年に「グローバル時代
の国際取引法学を構築するための新しい学会」と
して誕生し、現在まで8つの法制部会を編成して
活動しています。この度、創立10周年の節目に、
研究成果として、学会メンバーによる国際的に重
要なSDGsのテーマに関する論考集です。

半田 滋 (言語文化学科非
常動講師) 著

『パラレル—憲法から離れ
る安保政策』
地出版社 2025年4月
本体1800円(税別)

戦力不保持を定めた憲法9
条と、軍事力強化が進む実際の安保政策。その
乖離はもはやパラレルワールドのよう。イラク戦
争での自衛隊の活動を違憲と認めた名古屋高
裁判決(2008年)にあらためて光を当て、憲法
と安保政策の現在地を明らかにします。

村雲 和美 (言語文化学科
非常動講師) 分担執筆

『多文化共生と民族的マイ
ノリティ 近現代日本をめぐる
「人の移動」の歴史から』
明石書店 2025年5月
本体3600円(税別)

日本社会に増えつつある海外からの様々な移住
者の背景の理解を深めるため、在日コリアン女
性、中華民国(台湾)系華僑、アメラジアン、フィ
ピン系日系人、中国帰国者など移住者のルーツの
みならず、当事者の経験にも焦点をあて、多文化
共生の議論に歴史を振り返る視点を提供します。

大藤 紀子 (国際関係法学
科教授) 分担執筆

『EU法の参照可能性』
信山社 2025年6月
本体7800円(税別)

日本においてどのような場合
でいかにEU法を参照すれば
有益であり妥当なのか。EUの主要法分野につ
いて、各分野の専門家が具体的に分析した、比
較法学の実践と理論の書。須網隆夫先生(早
稲田大学名誉教授)の古稀を祝し、第一線で活
躍する研究者、実務家が集った待望の書。

尾玉 剛士 (フランス語学
科准教授) 分担執筆

『医療政策学
—一制度と論点』
法律文化社 2025年9月
本体3200円(税別)

医療政策や医療制度について、政治学者が政
治や行政、比較制度論の視点から概観した一
冊。扱われるテーマは医療保険や医療供給体
制などの医療制度(第I部)とEBMやパナデミ
ックなどの論点(第II部)。制度を解説するだけで
なく、医療にかかわる利害対立がどのように調整
されてきたかに着目しています。

2025年度春学期

「学生による授業評価アンケート」結果報告

授業評価アンケートは、授業に対する学生の
みなさんの意見を伺い、今後の授業内容の改
善を目的として各学期末に実施しています。ア
ンケート結果は授業毎に集約し、授業を担当し
ている教員や授業を開設している学部、学科に
フィードバックしています。

2025年度春学期の授業評価アンケートは
無事終了しました。大学全体での集計結果をご
報告します。

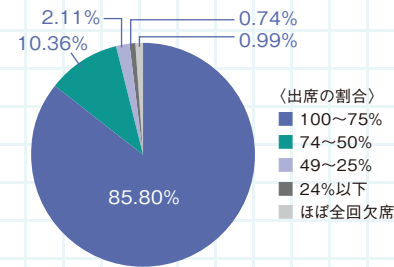
個々の授業の集計結果は、PorTaIIをご覧ください。

◆実施状況

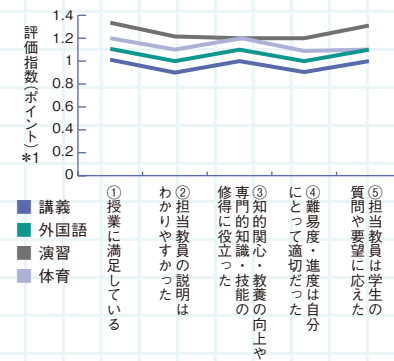
2025年7月7日(月)～2025年7月22日(火)
PorTaIIにて実施

	対象者数	回答者数	回答率
25年度春学期	8,459	3,162	37.38%
24年度春学期	8,359	3,273	39.15%

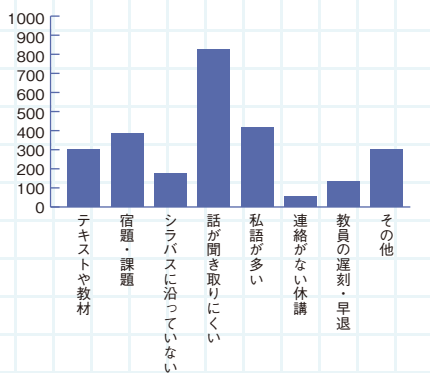
1.出席状況(全学平均)



2.授業評価(授業形態別)



3.各授業の問題点(複数選択可)※2



※1 授業に関する5項目の質問の回答を「そう思う=1.5」「ややそう思う=0.5」「あまりそう思わない=0.5」「そう思わない=-1.5」「わからない=0」として、平均値を算出し、評価指数(ポイント)とした。

※2 総回答数:23,148件

ぶ-ら-り-ら-い-ぶ-ら-り

Vol.116

祝 発足10周年のBiVS(ビボス)の活動に注目!

今年発足10年を迎えた、図書館学生サポーター「BiVS」の活動にフォーカスします。

BiVSとは?

2015年4月に発足した図書館の学生ボランティアグループで、Bibliothek(ドイツ語で図書館の意) Volunteer Supporterの略称です。学生の視点から図書館の魅力を発信するアンバサダーの役割を担っています。現在のメンバーは21人。様々な学科学生へのメンバーが授業期間中、週に1回集まってミーティングをしており、クラブ・サークル活動と両立させているメンバーもいます。図書館職員はアドバイザーとしてサポートしています。

どんな活動をしているの?

- ・季節ごとのテーマ展示(「寝台列車で読みたい本」「本の福袋」「万博について知ろう」など)
- ・美術館・博物館見学(展示の参考)
- ・SNS(X、Instagram)での発信
- ・機関誌「BiVSの本だな」の発行
- ・図書館総合展等への出展



図書館総合展 ポスターセッション1位受賞

「図書館総合展」は国内最大の図書館に関する展示会で、昨年は11月5日～7日にパシフィコ横浜で開催され、12,786名が来場しました。BiVSの活動や図書館の取り組みを紹介したポスターを図書館職員とのコラボで初出展したところ、来場者投票により約70団体のなかから見事1位を受賞しました。



文教大学図書館 「ほんだな係」との交流会

6月28日(土)に文教大学越谷図書館の学生ボランティア「ほんだな係」の皆さんを本学にお招きし、図書館見学やゲーム、お互いの活動紹介等を行い交流を深めました。楽しくお互いに学びのある有意義な会でした。今後も継続予定で、次回は文教大学で行います。



選書ツアー

メンバーの希望により、本学図書館の資料購入基準を学び、予算枠内で図書館に所蔵する本を選ぶ「選書ツアー」を9月4日(木)に紀伊國屋書店で実施しました。参加したメンバーは「楽しかった」「大学にふさわしい本を選ぶ貴重な体験だった」と振り返っていました。選書した本と作成したポップは、紀伊國屋書店新宿本店3階アカデミック・ラウンジで展示されました。獨協大学図書館でも冬に特集展示を行います。



BiVSメンバーからのメッセージ

「今後も、図書館での展示やイベントへの出展、SNSでの発信のほか、他大学や企業とのコラボ、本屋めぐりなどを計画しています。学年も学科も関係なく、秋学期からでも参加できますので、私たちと一緒に図書館の魅力を発信する活動を行ってほしい。興味のある方は図書館にお問い合わせください」

COVER STORY

地域と大学をつなぐ交流拠点

11月号の表紙は、「学術研究・教育活動×地域との開放的な交流の場」をコンセプトに、自由度の高い第二のキャンパスとして2023年に誕生した「獨協大学コミュニティスクエア」。公開講座やシンポジウム、地域住民との交流イベントなどを通じて「開かれた大学」を実現し、知識や文化を広く社会へ発信しています。学生にとっては実践的な学びの場となり、地域にとっては学術的・文化的資源に触れられる交流の場として活用されています。



「デコ活」宣言しました

2025年8月1日、本学は「デコ活」を宣言しました。「デコ活」とは、2050年カーボンニュートラル及び2030年度削減目標の実現に向けて、環境省が国民・消費者の行動変容、ライフスタイル転換を強力に後押しするため展開している活動のことで、二酸化炭素(CO₂)を減らす(DE)脱炭素(Decarbonization)と、環境に良いエコ(Eco)を含む「デコ」と活動・生活を組み合わせた言葉です。例えば、食品ロスをなくす、移動手段に徒歩や自転車を利用するのも、「デコ活」です。今回の宣言を機に、教職員及び学生の省エネへの更なる理解と意識向上を図り、SDGs活動を推進していきます。みなさんも、日々の生活・仕事の中で、「デコ活」を実践しましょう。



第61回雄飛祭 11月1日(土)・2日(日)

今年のテーマは「Together as One」

〔イベント〕

- 〔両日〕 ■学生団体による展示・学術発表・ステージ発表/模擬店
 ■バブルサッカー/謎解きゲーム/ホラーハウス
 ■わくわくワールドゲームズ/カフェ
 ■セルフ写真館/絵馬を書く in 雄飛祭 雄飛祭に関わる全ての人に満足していただける雄飛祭を!
 ■DOKKYOフリーマーケット
 ■イルミネーション/光る飴販売

〔1日〕 ■開祭式

〔2日〕 ■閉祭式 ■タレントトークショー

X

Instagram

HP



マスコットのゆーべいくん

本学オリジナルアパレル

ECサイト「[DOKKYO]MARKET」にて販売中

この企画は、創立60周年記念として本学のイメージを刷新するとともに、関係者の愛校心の醸成を目的として開始しました。2025年度は5月にプロジェクトを組織し、新商品を開発しました。12月には、学内でポップアップイベントを予定しています。みなさんも獨協ブランドのアパレルを身に着けて、キャンパスライフを楽しもう!


<https://collegemarket.jp/collections/dokkyo>


獨協大学学生サポート寄付金募集協力をお願い

本事業は、「よりよい社会の構築に貢献する人材」を育成すべく、国際化推進、地域連携・地域貢献、学生会活動、自律学習など、学生の活動全般を広く永続的に支援することを主眼としています。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。
 ※クレジットカード決済、コンビニエンスストア決済、インターネットバンキング(Pay-easy)、銀行振込等をご利用いただけます。
 ※法人の方は直接お問合せください。 所管 獨協大学総合企画課 TEL.048-946-1635

詳しくは、本学ホームページをご覧ください。

<https://www.dokkyo.ac.jp/donation/>



編集 総合企画課(中央棟2階) TEL.048-946-1635 kouhou@stf.dokkyo.ac.jp

学生記者 大久保 賢斗(営4年) 片柳 月奈(言4年) 金田 夏実(律4年)
 [五十音順] 川合 くるみ(営2年) 島田 瑠里香(済4年) 土田 優衣(営4年)
 土屋 日花莉(律4年) 原 友里恵(英4年) 柳澤 真理子(営4年)
 渡邊 帆風(営4年)

略称表記(学科) 独…ドイツ語/英…英語/仏…フランス語/交…交流文化/言…言語文化/済…経済/営…経営/環…国際環境経済/律…法律/関…国際関係法/総…総合政策



<https://www.dokkyo.ac.jp/>

次回は1月号(1月8日発行予定)です